

## 悪魔の誘惑

ルカによる福音 4:1-13

(そのとき、) イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒野の中を“霊”によって引き回され、四十日間、悪魔から誘惑を受けられた。その間、何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」イエスは、「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」とお答えになった。更に、悪魔はイエスを高く引き上げ、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せた。そして悪魔は言った。「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。それはわたしに任されていて、これと思う人に与えることができるからだ。だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。」イエスはお答えになった。

「『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」そこで、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて言った。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。というのは、こう書いてあるからだ。『神はあなたのために天使たちに命じて、あなたをしっかりと守らせる。』また、『あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える。』」

イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』と言われている」とお答えになった。悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。

### 説教

もし、イエスさまが悪魔の申し入れを「それもまんざら悪くはないな」と受け入れているとすればどうなったでしょうか？

- 1) 石がパンになれば、世界中の飢えはなくなります。

2) イエスさまが一切の権力、繁栄を手に入れていけば、イエスさまの支配による世界が実現します。

3) 奇跡を自在にあやつることができれば、瀕死の人々を救うことができます。

石をパンに変えることで飢え・貧困はなくなり、横暴な権力者のかわりにイエスさまが世界を平和に統治し、どんな思い煩いも、また不治の病いも天使によって癒されます。なにもかにもいいことづくめのように思えます。しかし、イエスさまは悪魔の申し出をことごとく退けられました。

**イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒れ野の中を“霊”によって引き回され、四十日間、悪魔から誘惑を受けられた。ルカ 4:1-2**

イエスさまは霊に悪魔を紹介されています。聖霊がイエスにいじわるしているようなものです。でも終わってしまえば、これもイエスさまにとっては必要な試練でした。

ルカ福音書の伝えるところでは誘惑が終わると悪魔はイエスさまから離れていきます。

**悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。ルカ 4:13**

そして離れていった悪魔がふたたびイエスさまに現れるのは受難の時です。

**イスカリオテと呼ばれるユダの中に、サタンが入った。ルカ 22:3**

ユダの裏切りによってイエスさまは十字架への道を歩むことになりました。ところで、ルカ福音書によれば 4:13 から 22:3 のあいだは悪魔が離れた時間帯です。「時の中心」とか「イエスの時」と呼ばれています。ぎゃくにいえば、この短い間だけは悪魔がいなかった「時」です。イエスさまが存分に福音宣教活動ができた「時」でした。霊による「荒れ野引き回し」「悪魔の誘惑」事件はイエスに時を与えるための手段だったのかもしれませんが。

しかし、いまはユダのなかに入り込んだ悪魔が暗躍している時間です。

イエスさまが荒野での悪魔の誘惑にあわれてから 2000 年の時がすぎ、現実の世界をほめたたえることができない「今」に生きるわたしたちは悪魔の誘

いを拒絶したイエスさまを改めて見習う必要があります。核による世界支配、富の偏りによる貧困、新型ウイルスの脅威など「イエスの時」の終わりを見定めたかのように悪魔の世界は広がっています。

それだからこそ、悪魔の誘惑という試練をはねのけたイエスさまと共にわたしたちも歩いていく恵みを頂けますように。

-----